

SDGsで

持続可能な未来へ

2030年の世界を想像してみてください。
あなたはどこにいて、なにをしているでしょうか。
SDGsとは、次の世代へ明るく豊かな未来を残すため、
世界中で取組む目標のことです。
子どもたちが大人になった目線で、
今私たちができることを考え、
行動することが求められています。

■SDGsとは……

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のため」の2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one

behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



■第2回ジャパンSDGsアワードを受賞しました

12月21日、大崎町は「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部(本部長内閣総理大臣)」が創設した第2回「ジャパンSDGsアワード」にて、リサイクル事業を中心とした経済面・社会面・環境面からの統合的な国内と主にインドネシアで展開している国外の持続的な取り組みが評価され、副本部長(内閣官房長官)賞を受賞いたしました。



▲首相官邸でおこなわれた表彰式の様子

■受賞した理由・取り組み紹介

【環境分野】

・大崎システムのルールの理解促進を目的とした年間約50回の学習会の実施

・企業(㈱そおりサイクルセンター)による収集と再資源化のための中間処理

・住民によるごみ27品目分別化と約210か所のごみ集積所への集積

・高齢者・心身障がい者等の負担軽減に注力し、対象者の自宅に直接取りに行くごみ回収支援を行う「ごみ出しサポート等事業」の実施

・平成24年よりインドネシア国デポック市及びバリ州にJICA草の根技術協力事業を合計6年間実施し、延べ59人の普及指導員を育成し、埋立処分量の減量化に寄与

【経済分野】

・㈱そおりサイクルセンターは約40名の雇用を創出し、リサイクル製品の原料販売

による総額1億3千万円の売却益を上げ、一部利益を自治会の活動資金に還元

・生ごみから作られる有機堆肥は年間294トン製造・